

## コントラバス

# Contrabass

内藤 謙一 ないとう けんいち



【出身】京都市立芸術大学  
 【所属】大阪センチュリー交響楽団、なにわ（オーケストラ）ウィーンズ、相愛大学講師  
 【趣味】本と酒と落語  
 【血液型】A型  
 【星座】さそり座  
 【読者にひとこと】「愛情」と「くふう」  
 【手紙の送り先】ブログ <http://labyrinthos.topaz.ne.jp/> にメールフォームがあります

## 「弓の通り道」を考えたことがありますか？

先月の予告どおり「弓の通り道」についてのお話をします。飛行機から「赤道」が見えないのと同じく（?）、きれいに弓が動くための「補助線」は奏者の頭の中にはありません。想像力を豊かに持って練習しましょう。

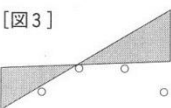
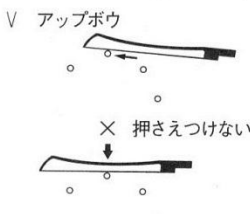
### ■【くふう1】1本の弦上で

弓を柔らかく持って、よく響く音で開放弦の練習をしてきていることと思います（7月号参照）。そのときに「弦の上に静かに乗せて」と書きました。実はここにもひとつくふうの余地があります。

【図1】を見てください（黒丸は弦の断面です）。実際に弾くとき、**ダウンボウ**では弦の真上より**少し左側**を弓の毛が「搔きとって行く」イメージで、**アップボウ**では**少し右側**を弓の毛が「押していく」イメージで弾いてみてください（【図2】）。「弦のどこを弾くのか？」と考えると、弓はいつも弦の真上からだけではなく（もちろん押さえつけ過ぎないように）、少しの違いですが、アップとダウンとで違う方向へ弾くことが可能になります。



【図2】  
 □ ダウンボウ  
 △ アップボウ



このように、ひとつの弦上には「弓の通り道」は1本だけなのではなく、むしろ「隣の弦に触らないエリア（角度）の間に無数に

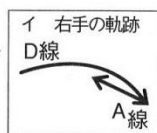
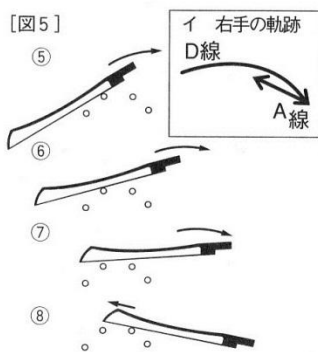
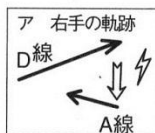
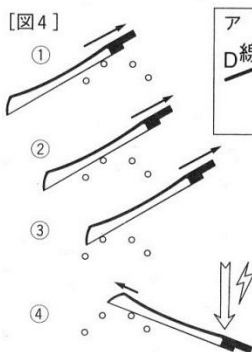
ある」とイメージするとよいでしょう（【図3】）。

### ■【くふう2】移弦のとき

弾いている弦から、違う弦へ弓を移すことを移弦（いげん）と言います。移弦のときに、先ほどの「エリア（角度）」が自在に使えると、なめらかに、きれいに弾くことができます。

【図4、5】は【譜例1】を弾こうとしているところです。【図4】は「弓の通り道は一直線」という方法。みなさんは最初この方法で習ったと思います。①弓の元から弾き始めて→②弓の真ん中を通して→③弓先に来るまで、ずっと同じ方向に弾いていますので、④で次の音を弾くためには腕をすばやく動かして、あわてて弓をA線上に持ってこなければなりません（※右手は「ア」の軌跡を描く）。【譜例1】を1回弾くだけなら急激な動きでも何とか弾けるかもしれませんが、【譜例2】なら何回も瞬時に移弦しなければならないので右肩や右腕は激しい動きで力んで硬くなり、スムーズな移弦ができなくなってきます。

極端な例で言うと、【譜例3】のようなパターンを右腕をバタバタさせて弾いている人、また、そう教えている人をよく見かけますが、ぜひ【図5】の方法も練習してみてください。これは「弓の通り道は決められた1本の線上ではなく、弓を持った手が曲線を描く」



方法です。

⑤「次のアップはA線で」と意識しながら弾き始めます。弓を持った手はA線に近づく方向にゆるい弧を描き始めます→⑥弓の真ん中。さらに弧を描き→⑦で弓先に来たときには弓の毛はA線のすぐ近くに来ていますので→⑧でアップを弾き始めるために、弓の角度・右手やひじの場所などを少し動かすだけでスムーズに移弦ができます。弾き始めからの右手の軌跡は、直線に見えるほどのゆるやかな曲線を描きます（※イ）。

これは単純な例ですが、音が上がったたり下がったり、スラーがかかっていたりすると、右手の軌跡も複雑な曲線になってきます。「このメロディを弾く場合、右手はどんな軌跡を描くのかな？」と想像し、なめらかな線をイメージして練習してくださいね。

### ■夏は楽器にとってもキビシイ季節

高温多湿、飛び散る汗……。楽器や弓についた汗は乾いたタオルですぐふきとりましょう。また、練習する環境も、建物の中で風通しのよい場所を探してください。楽器を直射日光に当てないことは当然ですが、**木陰であっても「そと練」は避けましょう**。音の響きを聴きとることができませんし、楽器も傷みます。松ヤニもホコリを引き寄せるので、弓の毛の状態もすぐ悪くなってしまいます。

実は今回の練習は、微妙な弓のコントロールが必要な、非常に高度な内容といえるものなんです。ですから楽器を持って1年目のアナタは、8月号の【図】を見て、まず「まっすぐな、いくつかのルート」を確立する練習をしてください。2年目3年目に入ったアナタは、いっそうきれいに演奏するために、ぜひ今回の「くふう」に挑戦しましょう。ポイントは「次にどの弦を弾きたいか」です。来月はこのことを左手にも応用して、「次にどの音を弾きたいか」「どのポジションに行きたいか」をお話します。